

すいせん



発行者 須崎協議会 文化厚生部
下田市須崎179番地
須崎漁民会館内
電話 0558(22)8056

題字：梅田弥祐先生

「読書の秋」を思う

区長代理 森 豊春

小学生の頃、「少年マガジン」や「少年サンデー」と言った漫画本意外に、読んで本が「ベープ・ルース物語」

ベープ・ルースをご存じの方は少ないのではと思いますが、アメリカの野球選手で、一九一〇年代から一九三〇年代に活躍した偉大な選手です。ホームランも七〇本以上打っています。最近では、元祖二刀流とも呼ばれ、アメリカで活躍中の、大谷翔平選手とよく比較されています。選手でもあります。

この本で、印象に残ったのは、病気で入院している子どもとの約束で、ホームランを打つ場面です。熱いなフアンに、今日の試合でホームランを早く治すから、君もがんばって早く病気を治そうと約束をします。約束通りホームランをしっかりと打った場面には感動を覚えたことを覚えていきます。自分が野球を始めたのは、この本がきっかけになったのかなと思っています。

歴史物語や小説などを読むようになってからは、学校を出て就職してからです。人との関わりや野球の指導、自分の生き方などに少しでもプラスになればと、本を少しずつ読むようになりました。藤沢周平といったら作家の本を好んで読んで入りました。時には、自分が活躍する場面が、地理や歴史に興味があつて、本を読むことで知識が豊富になつて、人との接

し方や、人とのつながり方なども学べたと感じます。今、振り返ってみると、若い頃にもつと本を読んでもおけば良かったと後悔してきます。ちなみに、こちらに帰ってきて読み始めたのは、石原慎太郎の本です。田中角栄を書いた「天才」、弟裕次郎を書いた「弟」、男の粋な生き方、「老いてこそ人生」などを読みました。これからは、以前読んでそのままになっています。本を読み直してみようと思います。

さて、協議会の仕事を仰せ付かり一年半が過ぎようとしています。「盆踊り」や「芸能祭」などがコロナ禍の中で、中止となり、あまり仕事をしないように思っています。そんな中で、「古文書」なるものが江戸時代から大切に保存されるものが江戶時代を保管・管理の仕事をしています。さすがに、二〇〇年近く経つと薄い紙に書かれた物なので、損傷がひどくなっている物もあります。有志の先輩方が、丁寧に保管して、有志の先輩方が、丁寧に保管して、有志の先輩方が、丁寧に保管して...

数年より須崎の土地柄が気に入って、古い文書や地方の人々の暮らしを研究されています。大学の先生方が、整理や保存に協力してくれています。六月中旬には、先生方に尽力いただき、作業を行って八個分になりました。最終的に段ボール一個分になりました。最終的に段ボール一個分になりました。最終的に段ボール一個分になりました。

「古文書」の中身を私自身も読んで、ごらんください。江戸時代の須崎の人たちの暮らしや、海との関わりなどがあるかもしれません。須崎協議会 事務局

ご意見募集

市、区などへのご意見、ご要望
ご提言、ご質問

身近な話題

わが家の自慢、何でも結構。お寄せ下さい

須崎協議会 事務局

どが多く書かれています。貴重な物と言ったことなので、区民の皆さんにどこかでこれを「見て」、「知って」いただく機会があればと考えています。研究などがある先生方にもご協力をいただきながら、協議会役員とよく相談して、適当な時期を見計らって実行したいと思います。

「スポーツの秋」とも言われます。頭より健康を入れるばかりでなく、幼い頃より健康なからだ作りにも励んで欲しいと思います。今は、スポーツも多岐化し、野球やサッカーなどの球技ばかりではなく、下田中学校にはサッカー部が開設されたとか。何でもよいので、プロの選手や専門家になる必要はありません。丈夫なからだを育むかたに、スポーツを、からだを、育むかたに、運動かしてもらいたいと思います。

いのちニュース

九月の捕獲情報

3日(土)	はこ貝	1頭	40匹	刈
	〃	〃	15匹	刈
元法円寺跡地の横にて				
13日(火)	はこ貝	1頭	30匹	刈
御用邸側ごん太の奥側にて				
27日(火)	括り貝	1頭	90匹	刈
「シカ」須崎御用邸内にて				

〓 お悔やみ申し上げます 〓

〓 九月 〓
白 山口行雄さん 88歳 (さち丸)

九月の実施行事

- 2日(金) カイロ健康施術会(憩の家) 回覧日
- 3日(土) 安全運転管理者講習会①
- 6日(水) 安全運転管理者講習会②
- 7日(木) わらいの輪の会
- 8日(金) わらいの輪の会
- 16日(土) カイロ健康施術会(憩の家) 回覧日
- 17日(日) 区協議会定例会
- 19日(月) 敬老の日
- 21日(水) リサイクル分別収集
- 22日(木) リサイクル分別収集
- 23日(金) リサイクル分別収集
- 29日(木) 下田猟友会須崎支部会議

十月の予定行事

- 1日(土) カイロ健康施術会(憩の家) 回覧日
- 5日(水) 安全運転管理者講習会③
- 7日(金) 古着回収
- 8日(土) 区内一斉道作り(組長会) 回覧日
- 10日(月) わらいの輪の会
- 11日(火) リサイクル分別収集
- 13日(木) 区協議会定例会
- 15日(土) カイロ健康施術会(憩の家) 回覧日
- 16日(日) 須崎神社祭例大祭
- 18日(火) 両神社と語る会(浜崎小体育館) 古着回収
- 19日(水) 古着回収
- 21日(金) 下田市消防団ポンプ講習会
- 22日(土) 下田市検診(市民保健課)
- 24日(月) リサイクル分別収集
- 25日(火) 下田岳精会詩吟大会
- 26日(水) ふれあい交流会 中止
- 2日(水) 古着回収
- 3日(木) [文化の日]
- 4日(金) カイロ健康施術会(憩の家) 回覧日
- 5日(土) 区内道作り予備日(組長会)
- 6日(日) 区内道の輪の会
- 8日(火) わらいの輪の会
- 9日(水) フリサイクル測定別収集
- 10日(木) 区協議会定例会
- 14日(月) 市特定検診(市民保健課)
- 15日(火) 市特定検診(市民保健課)
- 16日(水) 古着回収
- 17日(木) 下田岳精会詩吟大会
- 18日(金) カイロ健康施術会(憩の家) 回覧日
- 19日(土) リサイクル分別収集
- 23日(水) 勤労感謝の日
- 25日(金) 市建設課の説明会

地元の良さを感じ取れる機会

浜崎小学校 校長 菊池 正仁

前回、「野生動物の出没に備えて」というタイトルで、サルやイノシシの特性について書かせていただきました。その後、様子をうかがいながら学級で指導をしました。しばらく落ち着いてきたなと思っていたところ、九月の中旬に前回の目撃現場に近い爪木崎口信号機付近で、「一晩中サルが居座っていた」という連絡をいただきました。地域の方がわざわざ登校前の時刻に学校まで足を運んで教えてくださりました。登校前に確認しましたが、既にサルの姿はありませんでした。ですが保護者の方からの目撃情報もあり、その週は集団下校にしました。下校前に先回りして確認し、職員が子供たちに付いて下校しました。結局、サルに遭遇することはありませんでしたが、安全第一でどつた行動なので、結果的にはよかったですと安心しました。そこでの出来事です。低学年の子供たちを送っていったとき、その様子を肩かけた保護者の方が後を追って、車を出してくれて「乗って行ってください」と声をかけてくれました。また、サルの情報をお伺いしたところ、「あそこに立っていたのはそのためだったんですね。ありがとうございます。」と感謝の気持ちも伝えていただきました。疲れは吹き飛び、やってよかったと思える瞬間でした。このように地域の皆さまも見ていただけているのだという実感は、共に子供たちの安全を考えていただけているという安心感にもつながっていききました。本当にありがたいことだと思っています。

話は変わりますが、九月の二十一〜二十二日に六年生が修学旅行に行ってきました。今年は見学地を静岡市にして、静岡に関する施設をじっくりと見学してきました。弥生時代の登呂遺跡や徳川家康に関する江戸時代に加え、何億十億年前からの歴史を学べる地球環境史ミュージアムと広く静岡の歴史を学びました。

さらに、科学館や匠宿で最新と伝統の技術を学ぶこともできました。静岡の歴史や文化のすばらしさを知る中で、改めて自分たちの住む下田の良さにも気付いていってほしいと思います。

(十月には須崎区にも足を運んだり、授業に参加してお手伝いしたりする計画もしています。その様子は次号にて紹介させていただきます。)

9/13 資源回収は中止になりましたが、学校に届けられたものを5・6年生が手伝ってくれました。



8/16 ZOOMの接続テスト。今後タブレットの活用を進めていきます。



その修学旅行で気づいたことがあります。それは子供たちの優しさです。みんなでいい修学旅行にしようという気持ちが伝わってきました。もう一つは、お土産選びです。限られたお小遣いの中で、家族へのお土産を楽しそうに考えていました。後口、子供たちに「お土産喜んでもらえた？」と聞くど皆嬉しそうに「はい！」と答えてくれました。子供のころからの思いやりの心が学校の安全を共に考える大人になる素地になっているのだなと思いました。

〈9月の学校の様子〉

8/21・22 6年生 修学旅行 (静岡方面)



須崎で見られる野鳥

18、モズ(百舌鳥)

丑嶋 久雄

「百舌鳥が枯れ木で鳴いている・・・。」という季節になってきました。モズは秋から冬にかけて「キチキチキチ」と鋭い大きな声で縄張りを主張します。これは「百舌鳥の高鳴き」として知られています。また、様々な鳥(百舌鳥)の鳴き声を真似た、複雑な囀りをすることが和名の由来となっているそうです。

日本ではほぼ全国で見られる留鳥ですが、東アジア地域に分布しています。身体全体はほぼ茶色ですが、オスには黒く太い過眼線があり、メスと区別できます。体長は20cmほど、ヒヨドリよりも小さいのですが、ずんぐりとした大きな頭部と、先端がかぎ状に曲がった強力なクチバシを持ち、バツヤやトカゲ、カエルのほかスズメやツグミ、ネズミなど自分と同じくらいの大さきの動物も襲います。強いクチバシと発達した首の筋肉で獲物を振り回し、絶命させます。そして、それらの獲物を枯れ枝などに串刺しにします。これを「百舌鳥のはやにえ」と言いますが、その意味は、縄張り説・貯蔵説など諸説あり、はっきりしたことはわかっておりません。

最近の研究では、「はやにえ」の消費が多かったオスほど繁殖期の歌の質が高まり、つがい相手を獲得しやすくなる事が明らかになったそうです。百舌鳥もいろいろ苦労しますね!!!

百舌鳥にはたくさんエピソードがありますが、二つ紹介します。

飲食や買い物で、仲間だけに金を出させて自分は負担しないことを「百舌勸定(もずかんじょう)」というそうですが、『百舌と鳩と鳴が買物をして代金の十五文を支払うときに、口のうまい百舌は鳩に八文、鳴に七文を支払わせて、自分は一銭も支払わずにすませた』という昔話から生まれたそうです。



大阪府堺市に広がる世界遺産になった「百舌鳥古墳群」について「日本書紀」に逸話があります。

その内容は、陵(お墓)建築中の現場に、突然シカが現れ作業員の目の前でそのまま死んでしまいました。それを不思議に思いシカの傷を調べるとシカの耳から百舌鳥が飛び出し飛んで行きました。その耳の中を見ると食いちぎられており、これ以降この地が百舌鳥耳原(モズノミミハラ)と呼ばれるようになったそうです。